

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4079600401
法人名	有限会社 英
事業所名	グループホームなごみの里
所在地	福岡県田川郡川崎町田原2185-1
自己評価作成日	平成25年2月8日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku.jp/40/index.php
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社 アーバン・マトリックス 評価事業部		
所在地	福岡県北九州市小倉北区紺屋町4-6 北九州ビル8階		
訪問調査日	平成25年2月27日	評価結果確定日	平成25年3月28日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

周りが自然に囲まれ季節を目で感じる事が出来る。 職員が入居者に対し、日々の生活の中で少しの変化も見逃さずに対応できる。
--

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

豊かな自然環境の中に広い敷地を有し、自家菜園の生育や収穫を楽しみ、果樹の実りを味わい、季節の花や彩りの変化を日常的に感じながら過ごすことができる。町内会に加入し、地域行事へ参加する機会も多く、利用者と地域との交流も活発になり、関係を積み重ねている。親睦を深める旅行や食事会などを計画し、また、ゆとりある休憩室や時間の確保等、働きやすい職場環境作りにも積極的に取り組んでおり、結果として、仕事への意欲とケアの充実につながっている。管理者、職員により、再構築された理念のもとに、より質の高い暮らしの実現に向けて、日常を大切にしたい支援が行われている。1ユニットの特徴を十分に活かし、個別の心身の状況の変化への気づきや、思いに向き合いながら、細やかな配慮と自然体での関わりが印象的なホームである。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印		項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印	
58	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:25,26,27)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	65	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,21)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
59	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:20,40)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	66	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,22)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
60	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:40)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
61	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:38,39)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
62	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:51)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	69	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
63	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:32,33)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	70	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
64	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:30)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

自己 外部	項目	自己評価	外部評価		
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
I.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念を休憩室に掲示し、朝の申し送り時に唱和するようにしている。定期に運営者により理念についての話を行い共有する機会を作っている。	玄関や事務室、職員休憩室にも理念を掲示している。これまでに、職員とともに理念の見直しを行った経緯もあり、職員からも、毎日唱和し、意識付けを行っているとの言葉があった。月2回のミーティングの中でも、話し合いや確認を行っている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	事業所が自治体に加入しており、地域行事に参加する事により地域の一員として日常的に交流できている。	運営者の地元でもあり、周辺地域とのつながりが深く、馴染みの関係性がある。神幸祭時には子供神輿や獅子舞の巡行を受け、敬老会やクリスマスなど事業所のの行事にも、大正琴や日舞などの地域のボランティアの参加があり、入居者の方々にとって大きな楽しみとなっている。近隣の農家から、野菜などの差し入れを頂くことも多い。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域の人から認知症についての相談を受けることもある。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議は家族の参加しやすい様に週末に行い、2ヶ月に1回行っている包括の職員の方にも参加していただけるようになった。	組長や民生委員の方だけではなく、近隣の地域住民の方の参加も得ている。家族全員に案内を行っており、固定せず、自由な参加を得ている。情報発信として、AEDの使い方、成年後見制度、感染症などの講習会も行っている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	入居者の方々の生活をホームだけでなく行政との相談や理解を得ながら支援しており連携してサービスの向上に取り組んでいる。	運営推進会議には、町役場職員、及び地域包括支援センター職員の参加を得ている。日頃より、川崎町役場との情報交換を密に行い、相談等に対応してもらっている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	マニュアルを作成しており職員にも日常的に管理者から話しをしている。	マニュアルを作成しており、抑制につながる言葉使い等については、ミーティングの課題として取り上げて検討している。研修計画の中に位置付け、身体拘束をしないケアについて、職員の共有認識を図っている。日中の施錠は行っていない。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	定期的に話し合う機会をもつ様にしている。		

福岡県 グループホーム なごみの里

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8	(6)	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	外部研修に行く等学ぶ機会を持っている。	現在制度を利用している方はいない。パンフレットを常備しており、家族がいつでも閲覧できるようにしている。市町村担当者から、運営推進会議開催時に講習を受け、その内容を職員に伝達している。	
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	行っている		
10	(7)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営推進会議への家族の参加も多く意思交換の場となる様働きかけている。家族の来園時に近況報告をする等コミュニケーションの機械を大切にし、意見の言いやすい関係作りに取り組んでいる。	家族が多く集まる敬老会や花見、誕生会などの機会に、家族交流会を計画している。運営推進会議の開催案内を全家族に行い、固定化せず、自由な参加の機会を確保している。	
11	(8)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	ミーティング時に職員の意見を聞くようにしている。	毎月10日は、法人代表者を交えて職員の意見や要望を検討している。また、研修の要望や、備品、運営に関しては、月末の職員会議にて意見のとりまとめを行っている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	できる限り職員の希望に合わせた勤務にしミーティング時に話しを聞く機会を設けている		
13	(9)	○人権の尊重 法人代表者及び管理者は、職員の募集・採用にあたっては性別や年齢等を理由に採用対象から排除しないようにしている。また事業所で働く職員についても、その能力を発揮して生き生きとして勤務し、社会参加や自己実現の権利が十分に保証されるよう配慮している	採用にあたっては年齢や性別による排除は行っていない。職員専用トイレ休憩室を整備し、リラックスできる空間作りを行い、旅行や軽食付きのミーティング等働きやすい職場環境づくりに努めている。	年齢制限や資格の有無を問わず、先入観なく自然に会話ができる方、コミュニケーション能力のある方を採用の基準にしている。年齢層も幅広く配置している。職員の休憩室も十分な広さを確保しており、休憩時間も確保されている。職員旅行やミーティング開催時の配慮等、福利厚生や働きやすさへの取り組みがある。	
14	(10)	○人権教育・啓発活動 法人代表者及び管理者は、入居者に対する人権を尊重するために、職員等に対する人権教育、啓発活動に取り組んでいる	新人研修やミーティングにおいて認知症ケアや個別ケアについての話し合いを行っている	新任研修時に人権研修を行っている。特に認知症についての理解を深めることで、人としての尊厳を保証することを基本に教育している。	

福岡県 グループホーム なごみの里

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
15		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	毎月のミーティングや月末には職員ミーティングで事例検討を行う中で意見を出し合いお互いにレベルアップできる様に取り組んでいる		
16		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホーム協議会に加入しており、情報の共有、交流の機会としている。他事業所への見学や他事業所からの見学などを行っている		
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
17		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	意思の疎通が可能であれば入居前から話を聞く機会を設けている		
18		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居前から家族の話を聞く機会を設けている		
19		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ケアマネや他の職員とも話しをして必要な支援は何かなど対応できる様に努めている		
20		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	家族としての関係作りを大切にしている。日々の暮らしの中で昔の話などを聞くなど学ぶ場面も多くある		
21		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	園での行事などに参加してもらえるように声掛けをし、来園されたときに一緒に介助をしてもらったりしている		
22	(11)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	家族と相談をしてなじみの方に来園してもらえるように支援している	自宅の様子を見に行ったり、近所の方や友人と会ったり、馴染みの関係が途切れないように支援している。桜の名所や行きつけの理髪店、スーパーにも同行している。利用者が入院中は毎日面会し、日常生活の変化への不安を緩和している。	

福岡県 グループホーム なごみの里

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
23		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	席の位置等に気を使っており、入居者同士が多く会話できるよう日中は談話室で過ごして頂ける様にしている		
24		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	行事などの参加の声掛け入居先、入院先への訪問や連絡を持つようにしている		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
25	(12)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	入居者は常に人に迷惑をかけたくないという思いがあり、その思いを大切に少しでも自立した暮らしが送れる支援を心がけている	思いや意向の把握に努め、介護計画にも具体的に盛り込んでいる。利用者が思いや願いを表現できるよう、さりげない場面作りを意識している。	
26		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	家族からの情報や入居者との日常会話などから、いままでの暮らしを把握できるように努めている		
27		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	毎日の生活状況から把握するように努めている		
28	(13)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	介護計画は日々の暮らしが入居者一人ひとりの意向を反映し満足した暮らしができるよう本人や家族からの情報や職場の意見を検討し作成している。また介護計画は本人や家族に説明し了解を得るようにしている	身体的な観察については、特に細やかなプランを作成しており、また職員からの客観的意見を取り入れ、ケアの充実に努めている。モニタリングやカンファレンスを通じて、現状の確認と、見直しの必要性を検討している。	
29		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別の記録をとっている		

福岡県 グループホーム なごみの里

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
30		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	多機能化としては認知症対応型通所介護の認可を受けている		
31		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	年に2回の消化避難訓練を行う時は傷病所に来ていただき運営推進会議には役場介護保険課、地域包括の職員に来ていただいている		
32	(14)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居者のほとんどが何らかの疾患や障害がある為定期的な通院を行っている	本人、家族の意向を尊重し、以前からのかかりつけ医への受診を支援している。通院を外出の機会ともとらえ、積極的に対応している。かかりつけ医とは常に情報交換を行い、家族へもその都度報告している。	
33		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	訪問看護ステーションと業務提携をしており定期的に来園してもらっている		
34		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時は本人、家族、意思との話し合いをし出来るだけ早く退院出来る様に努めている		
35	(15)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	意思への相談、職員、家族との話し合いで十分行うように努めている	入居時に、医療との連携体制や事業所の方針について説明し、意向確認を行っている。これまでに、看取りへの対応が行われた経緯は無いが、訪問看護との話し合いの中で、終末期の医療やケアの研修について検討が行われている。	
36		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	定期的に行っている。管理者は応急手当普及員の資格をもっている		

福岡県 グループホーム なごみの里

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
37	(16)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	定期的に避難訓練、防火訓練等を行い救急救命についても消防署の支援や管理者により行っている	年に2回、消防署の協力のもと、防災・防火・避難訓練を行っている。代表者宅が隣家にあり、緊急時にはすぐに出動できる態勢となっており、心強い。飲料水や食料など、3日分を備蓄している。スプリンクラーが設置されている。消防団との連携や避難時の見守り等、今後も継続して働きかけを行う予定としている。	
Ⅳ. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
38	(17)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	プライバシーの保護については職員全員が遵守しなければならない事項である為、新人教育の研修時から大切にしている。ミーティングで話している	排泄ケアや入浴時には特に留意し、さりげない対応を心掛けている。携帯電話やテレビの視聴など、個人の要望に合わせ、使用を制限していない。	
39		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	本人が選ぶことが出来る様に声掛けをしている		
40		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一日の生活行動についての時間配分はしているが一人ひとりのpw-巣を大切に本人の意向を聞く事で自己決定権がもてるように支援している		
41		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	散髪は訪問していただいております、身だしなみは本人に任せたり職員が手伝って一緒に行っている		
42	(18)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事は入居者にとっての楽しみの一つであるので嗜好調査等を行いおやつや飲物などにも反映させている、食事介助が必要な入居者もいるが常に一人ひとりのペースを大切に支援している	職員交代で食事作りを行っている。嗜好調査をし、献立に反映している。紅葉見学では、弁当を持参したり、外食では、うどん店を利用している。敬老会では、大皿に盛り付け、それぞれが取り分けて食べるなどを試みている。野菜の皮むきや配膳など、力を発揮する場面を支援している。	
43		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	疾病による食事や水分摂取量の指導を受けている入居者もいる為、食事水分摂取量は必ず記録している。病状による特別食、水分摂取量なども石の指示を守り相談しながら出来る限りの支援を行っている		

福岡県 グループホーム なごみの里

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
44		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	口腔ケアについて歯科医と相談して一人ひとりの力に応じて支援している		
45	(19)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	一人ひとり合わせた排泄をできるよう支援している	日中、おむつを使用している方はいない。個々の排泄パターンを把握し、さりげない対応を心掛けながら、身体状況等に応じた個別の支援を行っている。夜間については個別の状況を検討し、支援を行っている。	
46		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	医師へ相談し薬や食事の工夫で対応している		
47	(20)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	毎日入浴できる状況ではあるが入浴拒否の入居者もあり、清潔の保持や全身状態の観察の点から週2回必ず入浴出来る様にタイミングをはかり、一人ひとりその人にあった支援を心がけている	気が向いたらいつでも入浴できるように、常時入浴可能な体制にしている。入浴拒否の場合は無理強いをせず、タイミングや声かけを工夫し、少なくとも週2回は入浴できるよう支援を行っている。	
48		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	支援している		
49		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	個別ファイルを作り確認出来る様にしている		
50		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	日常生活での自分の居室は職員と一緒に掃除や片付けを行っている、男性は将棋が好きなので一緒に行ったり女性は洗濯物をたたんでももらったりとこれまでの暮らしの経験や特技を発揮出来る様に取り組んでいる		

福岡県 グループホーム なごみの里

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
51	(21)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	行事への参加やホーム敷地内の散歩等を含め戸外への外出支援を行っている、入居者は車椅子利用者が多くあまり、外出希望は多くないので通院途中で興味ある場所へ立ち寄ったり、医院のスタッフや他の通院者との会話等を大切にしている	車いすを利用者している方も多く、また冬期は特に外出希望が少ないが、季候に応じて、積極的に声かけを行っている。福智山麓花公園や桜の花見、紅葉狩り、また、日常の通院や買い物などの機会をとらえて、ドライブを兼ねて外出支援している。畑仕事や花壇の手入れなども、共に行っている。	
52		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	年に2回買物レクリーションを行い支払を本人にして頂いている。		
53		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話がしたいと希望された時は自由に使用して頂いている		
54	(22)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共有空間はゆったりした感じで床にはカーペットを敷いている。玄関先に設置しているソファは入居者同士のくつろぎの場となっている	敷地が広く、庭の木々に囲まれ、ゆったりした空間を確保できている。玄関先に設置しているソファは語らいの場となっている。共用スペースは、カーペットを敷いており、明るい印象を与える。入口はスロープが設置されており、安全に出入りできている。	
55		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	廊下のソファで過ごせる様にしている		
56	(23)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ベッドとローチェストはホームの備品で余暇は本人の使い慣れた家具、テレビ等を持ち込まれ思い思いの住まいとなっている	使い慣れた家具やテレビ、仏壇なども持ち込まれている。掃除が行き届いており、清潔が保たれている。車いすの目線に合わせて、表札の位置などにも配慮している。	
57		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	廊下に手すりを設置しており歩行訓練をされたり転倒防止になるようできている		